

令和3年度 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
がん患者に対する質の高いアピアランスケアの実装に資する研究
分担研究報告書

院内・地域連携モデルの提案に向けた患者による外見ケア時の課題研究

研究分担者 桜井なおみ キャンサー・ソリューションズ株式会社

研究協力者 金子茉央 大阪大学大学院人間科学研究科

研究要旨

がん治療に伴うサポーターケアの一環としてアピアランスケアの重要性が高まっている。しかしながら、そのケアが及ぼす患者への心理的な変化や情報、並びに購買行動に関わる現状は把握されていないことから、私たちは、患者の時系列に応じた心理特性を明らかにするとともに、そこでのアピアランス行動の特徴を調査、今後の医療従事者向け研修や患者への情報提供の在り方を模索することとした。

A. 研究目的

がん治療に伴うサポーターケアの一環としてアピアランスケアの重要性が高まっている。しかしながら、そのケアが及ぼす患者への心理的な変化や情報、並びに購買行動に関わる現状は把握されていないことから、患者の時系列に応じた心理特性を明らかにするとともに、心理特性に表れるアピアランス行動の特徴を調査、今後の医療従事者向け研修や、患者への情報提供の在り方を模索することとし、昨年度、がん治療に伴うアピアランスケアが及ぼす患者への心理的な変化や情報、並びに購買行動に関わる現状について調査を実施した。

今年度は、がん罹患後に起こる心的変化（不調から好調または好調から不調）のきっかけ（因子）を特定し、エビデンスに基づくアピアランスケアの情報提供、患者それぞれの状況に応じた心理的介入や経済支援などの個別対応の在り方についてさらに考察を深め、がん罹患後の心の状態遷移に患者本人のパーソナリティ、経済状況、人間関係、その他の環境要因が関連していることを明らかにするため追加解析を行った。

B. 研究方法

昨年度から実施した調査、研究を時系列で示していく。

1. グループインタビュー

2020年8月実施。

患者10名を対象にヒアリングを行った。

2. Web アンケート調査

2020年10月実施。

1030名の患者から回答を得た。

3. 解析① セグメント分類

患者本人が、がん診断前ならびに調査回答時の2時点において、それぞれ、主観的な心の状態が好調（非常に好調あるいはどちらかという好調）であるか、不調（非常に不調あるいはどちらかという不調）あるかという問いへの回答により、4セグメントに分類した。

① 適応型 (56.9%) : 好調→好調

がんになる前も好調で、がん罹患後も好調を維持。現状に適応できていると考えられる状態。

② グロース型 (17.2%) : 不調→好調

がんになる前は不調だったが、がん罹患後に好調に転じている。何かしらの要因が考えられる状態。

③ トラウマ型 (12.8%) : 好調→不調

がんになる前は好調であったが、罹患後に不調に転じていると考えられる状態。

④ 落ち込み型 (12.9%) : 不調→不調

がんになる前から現在まで不調であると考

えられる状態。

(①～④の該当者：計 625 名)

上記の分類を踏まえ、心の状態の好不調の変化は、どのような契機、背景、心理的耐性などの要因を持ち、各々の要因がどれほど影響するかを明らかにし、続いて各セグメントの患者支援の際に理解しておくべき要因や効果的な支援を明らかにすることを目的に、一元配置分散分析にてセグメントに関わる調査項目の把握を行った。

4. 解析② ロジスティック回帰分析

さらに一元配置分散分析で有意であった各項目について、二項ロジスティック回帰分析を用いて、4つのセグメントにおいて、診断前ならびに調査回答時の2時点において心の好不調で影響及ぼす要因のオッズ比を算出した。分析には統計分析ソフト IBM SPSS statistics 25 を用い、欠損値は項目ごとに除外し、有意水準は5%とした。

5. 倫理面への配慮

本研究は、大阪大学大学院人間科学研究科教育学系研究倫理審査(承認番号 20023)による承認を得て実施された。

C・研究結果

昨年度の調査結果より、今年度の追加解析の着目点(関連のある質問項目)を以下のように設定した。

心の好不調と関連があると思われる項目

- ・家族との関係
- ・周囲との関係
- ・経済的な事柄について
- ・家庭や職場における役割について
- ・外見(装い・身なり)について

また、今回の追加解析にあたり、対象者別に以下の仮説を設定した。

①診断前あるいは調査回答時のいずれかで不調と回答した対象者

- ・経済面では乏しい
- ・情報の求めた先の数が少ない
- ・元々の身体に対する関心は小さい
- ・治療により生じている症状の数が多い
- ・人目を気にする傾向にある

・医師からの外見変化の予後説明と現状に差が大きい

・(外見変化のケアをすることで)病気をより意識させられた

②診断前あるいは調査回答時のいずれかの時点で「好調」と回答した中でも過活動な対象者

- ・経済面では豊か
- ・情報を求める先の数も多い

③診断前も調査回答時も「不調」の対象者(落ち込み型)

・大小関わらず、何らかの発達特性による治療や生活への支障や精神障害があり、医療機関での適切な心理支援、カウンセリングが必要なのではないかと。

1. 一元配置分散分析の結果

昨年度実施した Web 調査の結果から、各セグメント(①適応型(好調から好調)、②グロース型(不調から好調)、③トラウマ型(好調から不調)、④落ち込み型(不調から不調)計 625 名)を説明する要因を明らかにするため、一元配置分散分析を行った。

一元配置分散分析で、①～④のいずれかの群間に有意差($p < .05$)があった項目を抽出した。

●基本情報に関する項目

MARRIED, HINCOME(世帯年収：段階が多く、解釈しにくいので削除)、JOB(段階が多く、解釈しにくいので削除)、がんステージ、現在のがん状況

●外見変化体験に関する項目

皮膚の色変化、皮膚の乾燥・湿疹など、爪の色変化、爪の変化、顔や身体のむくみ、体重減少、その他

●診断前の状態(好調～不調)に関する項目

家族、周囲、経済、役割、外見

●現在の状態(好調～不調)に関する項目

家族、周囲、経済、役割、外見

●外見変化に対して行ったケアによる変化に関する項目

前向きになった、人に会いたくなった、自分に自信が持てた、恋愛やパートナーとの関係に自信持てた、積極的に外出/旅行に行くようになった、自信を持って仕事できる、人が集まる場所へ行けるようになった、新しいチャレンジできる

ようになった, その他

- 医療者から外見が変化すると説明を聞いて取った対応に関する項目

ケアや対処を医療者に相談, ケアや対処を支援センター等で相談, ケアや対処を体験者に相談, ケアや対処を美容サービスで相談

2. ロジスティック回帰分析の結果

各セグメントを予測する式を計算するため, ロジスティック回帰分析を行った結果として, セグメントごとに各モデル式の予測率(当てはまったデータの割合/判別率的中率)および優位性のあった項目(オッズ比)を以下に示す。

①適応型(表1)

▶ 予測率: 73.6%

- ・経済【現在】(1.49)
- ・外見【現在】(1.94)
- ・家族【診断前】(1.96)
- ・爪の変化【外見変化体験】(0.60)
- ・人に会いたい【変化】(1.53)

②グロース型(表2)

▶ 予測率: 89.5%

- ・MARRIED(2.48)
- ・周囲【診断前】(0.56)
- ・経済【診断前】(0.70)
- ・周囲【現在】(1.68)
- ・恋愛への自信【変化】(1.34)
- ・家族【診断前】(1.96)
- ・ケアや対処を体験者に相談【外見変化対応】(0.11)

③トラウマ型(表3)

▶ 予測率: 88.5%

- ・経済【現在】(0.54)
- ・外見【現在】(0.54)
- ・顔や身体のむくみ【外見変化体験】(2.06)
- ・人に会いたい【変化】(0.61)
- ・ケアや対処を支援センター等で相談【外見変化対応】(2.88)

④落ち込み型(表4)

▶ 予測率: 89.3%

- ・周囲【診断前】(0.52)
- ・家族【現在】(0.61)
- ・外見【現在】(0.47)
- ・体重減少【外見変化体験】(1.92)
- ・その他【外見変化体験】(4.98)

D. 考察

1. セグメントごとに見えてきたパーソナリティや社会支援の特徴

①適応型(好調→好調)

【診断前】家族との関係が良好

【現在】外見の状態が良好

【変化】人に会いたいに肯定的

【変化】爪の変化が少ない

②グロース型(不調→好調)

既婚の割合が高い

【診断前】周囲, 経済が不調

【現在】周囲が良好

【変化】恋愛への自信が良好

【外見変化対応】ケアや対処を体験者に相談が少ない

③トラウマ型(好調→不調)

【現在】経済は不調

【現在】外見が不調

【外見変化体験】顔や身体のむくみが多い

【変化】人に会いたくなくなった

【外見変化対応】ケアや対処を支援センター等で相談が多い

④落ち込み型(不調→不調)

【診断前】周囲との関係が不調

【現在】家族との関係, 外見が不調

【外見変化体験】体重減少が多い

【外見変化体験】その他(※)が多い

※「その他」例: ホルモンの変化, 身体障害, しびれ, 喘息, ドライマウス, 人工肛門, ムーンフェイス, 皮膚のつっぱりなど。→アピアランスではないが, 重要な変化。アンメットニーズ。

2. 今後の期待

●適応型, グロース型, トラウマ型, 落ち込み型の各セグメントにおいて, 家族などの人間関係の要因が大きいこと, 支援においてはアピアランスケアの方法を伝えると同時に, 周囲との関係性などのコミュニケーションスキルトレーニングと言った具体的支援も必要であることが示唆された。

●トラウマ型は, 相談支援センターへ相談する割合が高いが, 不調になってしまっていることから, 経済状況に応じた情報提供ができていないなど, 患者のニーズに合っていない可能性があり, 相談員へ

のアピアランスケア研修や適切なリファーマー先を学習する機会の提供なども必要になる。

- 影響の大きい要因として脱毛症状が出なかった理由として、すでにケアの情報数が多くあり、対処可能となっていることが考えられる。
- 適応型とグロース型は、経済状況や家族関係などにおいて支援の数が多いなどにより、自身で回復ができていると考えられる。
- 一方、トラウマ型と不調型は、単なるアピアランスケアのみならず、周囲との関係性においても関係性が希薄であり、不調であることが考えられる。このことから、専門性を有した職種による社会的・心理的支援が必要ではないかと考える。今後は、まずは全ての患者に対して基本的なアピアランスケア情報を届けるための仕組みを日常診療の流れのなかに導入する（Patient Flow Management）と同時に、より深い支援を必要とする患者を、アピアランスケアを入口に拾い上げができるよう、問診や聞き取り項目（アセスメントシート）の作成や研修による相談者スキルの向上が必要である。

3. 本研究の限界

- 本調査においては、副作用症状に関する質問項目は設定しておらず、その要因の影響も考慮する必要がある。
- いずれかに「どちらでもない」と回答した対象者に関する要因については、不透明である。

D・結論

今年度実施した追加解析から、患者の行動特性・背景に応じた効率的・包括的な情報提供モデルの作成を行った。この背景には、限られた医療リソース、医師の働き方改革など社会ニーズの下で、地域の情報資源と連携をした効率的、効果的なアピアランスケアの提供により『誰も取りこぼさないアピアランスケアシステム』が必要だと思われる。また、民間企業などによる様々な地域資源ニーズに対して、『医療機関に求められるアピアランスケア』についても同

時に検討した。

<効果的なアピアランスケア提供モデル>

日常診療の中で実装化するための効率的、効果的なアピアランスケアの提供モデルについて検討した。以下、①②はすべての患者に実施し、Patient Flow Managementの中に組み入れることが必要なもの、③については②のアセスメントシートの結果から個別対応を実施する流れとなる。

① 全ての患者に必要なアピアランスケア（エビデンスに基づいたアピアランスケア情報による支援）

以下の情報提供を、最初に確実に実施することが重要と思われる。

- ・エビデンスに基づくアピアランスケアの情報フライヤーの提供

- ・基本的な病状の確認支持療法の提供

② 個別対応へのヒント（個々のニーズに応じた効率的な情報提供の仕組みとしてアセスメントシートへの導入が考えられる項目）

アセスメントシートなどを用い、アピアランスケアを行う患者の行動に優位に影響を与えるパーソナリティや環境要因について確認を行う。

例)

- ・家族構成、家族関係
- ・外見への自己肯定感
- ・経済状況
- ・顔／身体のみくみ、体重増減、身体の見た目の変化（頭頸部やストマ）が生じそうな治療の有無

③ セグメントごとの情報処方（より専門性を有したアピアランスケアが求められるもの）

●適応型（56.9%）

- ・アピアランスケアの基本的な情報をリーフレットなどで提供すれば、自分で行動できる。

- ・アピアランスケアによりポジティブな気持ちへの変化が見られる。もともと人間関係も良く、罹患後の自己肯定感もあることから、リーフレットなどを用いた基本的情報提供で適応できると考えられる。

●グロース型（17.2%）

- ・アピアランスの変化で病気を意識せざる

を得なくなっているが、家族・周囲の理解や支援、エンパワメントによって落ち込みを回避できていることから、家族・周囲にもアピアランスの変化についての情報提供が必要（理解がエンパワメントになる）。

・ケアに費やす時間や費用など、無理せずにできる情報提供が必要。

●トラウマ型（12.8%）

・アピアランスの変化（特に浮腫み）を体験しており、相談支援センターに相談しているが、解決に結びつかなかったケース。

・経済面、自己肯定感も低下しているため、アピアランスケアと合わせて、情緒面、経済面の情報提供や相談対応が必要と考えられる。

●落ち込み型（12.9%）

・数としては希少になるアピアランスの変化に対する情報、心理支援が必要。（ストマ、身体障害、顔の変形、ケロイド、痺れ、血管炎、声枯れなど）

・周囲や家族などとの関係性は低調で、さらにアピアランスの大きな変化により自信を失っており、専門的ケアが必要な患者。

・支持療法含めたチーム医療によるアプローチも必要。

E. その他

特記すべき事項なし。

F. 健康危険情報

特記すべき問題なし

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし。

2. 実用新案登録

該当なし。

3. その他

特記すべきことなし。

表1. 適応型 (ロジスティック回帰分析結果)

目的変数：①適応型以外のグループ(0)/ 適応型(1)
 多変量ロジスティック (強制投入法)

多変量ロジスティック回帰分析結果 (n=546)

モデルに投入された変数	偏回帰 係数	オッズ 比	95% 信頼区間		有意確 率	
			上限	下限		
SEX	-0.05	0.95	1.49	—	0.61	0.83
AGEID	0.02	1.02	1.15	—	0.90	0.80
MARRIED	-0.42	0.66	1.06	—	0.41	0.08
経済【現在】	0.40	1.49	1.83	—	1.22	0.00
外見【現在】	0.66	1.94	2.47	—	1.53	0.00
家族【診断前】	0.67	1.96	2.48	—	1.55	0.00
爪の変化【外見変化体験】	-0.52	0.60	0.94	—	0.38	0.03
人に会いたい【変化】	0.43	1.53	1.89	—	1.24	0.00
恋愛への自信【変化】	-0.18	0.83	1.04	—	0.67	0.11
定数	-5.76	0.00	—	—	—	0.00

表2. グロース型 (ロジスティック回帰分析結果)

目的変数：②グロース型以外のグループ(0)/ ②グロース型(1)
 多変量ロジスティック (強制投入法)

多変量ロジスティック回帰分析結果 (n=460)

モデルに投入された変数	偏回帰 係数	オッズ 比	95% 信頼区間		有意確 率	
			上限	下限		
SEX	0.20	1.23	2.19	—	0.69	0.49
AGEID	0.04	1.04	1.23	—	0.88	0.63
MARRIED	0.91	2.48	5.06	—	1.21	0.01
周囲【診断前】	-0.59	0.56	0.82	—	0.38	0.00
経済【診断前】	-0.36	0.70	0.91	—	0.53	0.01
周囲【現在】	0.52	1.68	2.62	—	1.08	0.02
その他【外見変化体験】	-0.08	0.92	4.44	—	0.19	0.92
恋愛への自信【変化】	0.30	1.34	1.72	—	1.05	0.02
ケアや対処を体験者に相談【外見変化 対応】	-2.19	0.11	0.85	—	0.02	0.03
定数	-3.28	0.04	—	—	—	0.01

表3. トラウマ型 (ロジスティック回帰分析結果)

目的変数：③トラウマ型以外のグループ(0) / ③トラウマ型(1)
 多変量ロジスティック (強制投入法)

多変量ロジスティック回帰分析結果 (n=460)

モデルに投入された変数	偏回帰 係数	オッズ 比	95% 信頼区間		有意確 率	
			上限	下限		
SEX	-0.30	0.74	1.46	—	0.38	0.38
AGEID	0.12	1.13	1.38	—	0.92	0.24
経済【診断前】	0.33	1.39	1.94	—	0.99	0.06
経済【現在】	-0.61	0.54	0.76	—	0.39	0.00
外見【現在】	-0.61	0.54	0.76	—	0.39	0.00
顔や身体のむくみ【外見変化体験】	0.72	2.06	3.95	—	1.08	0.03
人に会いたい【変化】	-0.50	0.61	0.85	—	0.44	0.00
外出／旅行【変化】	0.04	1.04	1.44	—	0.75	0.81
ケアや対処を支援センター等で相談【外見変化対応】	1.06	2.88	7.56	—	1.10	0.03
定数	0.79	2.20	—	—	—	0.54

表4. 落ち込み型 (ロジスティック回帰分析結果)

目的変数：④落ち込み型以外のグループ(0) / ④落ち込み型(1)
 多変量ロジスティック (強制投入法)

多変量ロジスティック回帰分析結果 (n=544)

モデルに投入された変数	偏回帰 係数	オッズ 比	95% 信頼区間		有意確 率	
			上限	下限		
SEX	0.51	1.67	3.26	—	0.86	0.13
AGEID	0.04	1.04	1.25	—	0.86	0.71
周囲【診断前】	-0.65	0.52	0.76	—	0.36	0.00
家族【現在】	-0.50	0.61	0.81	—	0.46	0.00
外見【現在】	-0.75	0.47	0.65	—	0.34	0.00
体重減少【外見変化体験】	0.65	1.92	3.63	—	1.02	0.04
その他【外見変化体験】	1.60	4.98	15.66	—	1.58	0.01
外出／旅行【変化】	-0.17	0.84	1.10	—	0.65	0.22
定数	3.48	32.42	—	—	—	0.01